

## 行政視察の結果を報告いたします

### 《総務委員会》

委員長 栗原 繁

7月23～24日

#### ●移住・定住施策について ●ビジネスプランコンテスト事業について

視察先…静岡県 小山町  
小山町には、国際的な寝具メーカーを初め、精密機器、食品等の優良な企業が、優れた交通アクセスにより、進出している。昼間人口の増加を強みに、職住近接を謳うことでこれらの需要を喚起していた。

加えて、「小山町まち・ひと・しごと創生総合戦略」・「小山町人口ビジョン」に基づき、若者世代のための結婚、出産、子育て支援・住環境の整備や地域活性化システム構築を目指したビジネスプランコンテストなど、様々な施策により移住・定住を推進している。  
行方市に開発を伴う政策は、そぐわないと思われるが、多面的に行われるイメージアップ戦略、職員一丸となったの取り組みは、行方市らしい定住化を模索するために充分参考になった。

#### ●気象コンテンツサービス事業について

視察先…(株)ウェザーニューズ 千葉市 美浜区  
ウェザーニューズは、海難事故を契機として、気象の世界に進み、現在は、世界一の民間気象情報会社となっている。

サービスについても、海の気象台としてスタート後、放送局向けのサービスや航空気象・道路気象・防災気象など44市場にリスコムユニケーションサービスを展開している。「いざという時、誰かの役に立ちたい」という思いは創業時から今も変わらず、全スタッフに受け継がれていることは、実際、各フロア、それぞれ担当者の説明を聞くにあたり感ずるところであった。情報発信日本一を掲げる当市であるならば、更に、一方的な情報発信に止まらず、双方向に情報を収集し、情報の細分化と共有によるパーソナル化を目指したい。



### 《教育厚生委員会》

委員長 鈴木 裕

7月4～5日

#### ●地域包括支援センターの委託の経過及び運営状況、特色ある高齢者サービス事業

視察先…神奈川県 鎌倉市  
鎌倉市では、地域包括支援センターを、合計10カ所に設置しており、日常生活圏域5地域のなかで、民生委員児童委員協議会数と同数となるように設置をしたとのことでした。  
センターが10カ所あるため、方向性が違ってきたりしないよ

うに、全体会等の会議を設け活動している。

特色ある事業は、各センターに「地域連携担当者」を配置し、相談を待つだけでなく、地域に足を運ぶことで、地域とのつながりの中から高齢者に必要な支援が届くように配慮しているとのことでした。

また、高齢者サービスの 일환として、「高齢者生活支援サポートセンター」があり、主な活動内容は、趣味や生きがいのための支援、外出支援、自立支援の妨げにならない程度の家事支援を行っているとのことでした。

利用料は、1時間あたり900円で、サービスを受ける側は80代が多く、提供する側は圧倒的に70代が多い状況とのことでした。

この助け合いの仕組みが広がると、地域の中での孤立や閉じこもりなど、生活の不安を減らすことや定期的な人が訪ねてくることによって、日常生活が精神的に豊かになり、生活の質の向上につながる。また、高齢者生活支援サポーターとの交流により、認知症の予防や要介護状態にならない健康な体力を維持することが可能になると思われるとのことでした。

●スポーツ施設の指定管理者制度の導入

視察先…神奈川県 小田原市  
小田原市では、スポーツ施設（小田原アリーナ、小田原テニスガーデン、城山陸上競技場、小峰庭球場の4施設）を一括管理とする指定管理者制度を、平成24年度から導入しています。期間は5年間とし、指定管理者は小田原スポーツ・文化運営企業体（4社のJV）で、管理運営を行っています。

導入効果としては、スポーツクラブ、清掃、設備運転管理などそれぞれに精通し、指定管理の実績を積んだ専門企業の集団による運営管理が、4施設で効果的・効率的に行われていることやスポーツ教室などの自主事業の実施、専属トレーナーの配置などで、市の直営だった平成23年度の年間利用者数は53万人だったが、平成24年度から指定管理となり、平成29年度の利用者数は66万人と、大幅に利用者が増えているとのことでした。

また、経費削減効果としては、市が行っていた契約業務・収納業務などの管理運営業務に係る人件費（約1名分）の経費削減につながっているとのことでした。



《経済建設委員会》

委員長 小林 久

7月9～11日

●もっちもち米プロジェクト事業について

視察先…北海道 名寄市  
名寄市におけるもち米の作付面積は平成29年度で3271ヘクタール、市の水田の約90%をもち米が占めています。出荷俵数は27万6370俵で、そのうちの約30%が加工用米となっているとのことでした。

取引先としては、三重県伊勢市の赤福をはじめ、新潟や名古屋、大阪

方面から産地指定を受け、大福などの用途に加工され好評を得ているとのことでした。品種の特徴としては、「柔らかく硬くなりにくい」が最大の売りとなっています。品種改良によるところもありますが、名寄市特有の昼と夜の寒暖差の大きい気候が影響していると思われます。

また、病害虫の発生も少なく、病害虫防除も必要なく、クリーンな栽培が行なわれ、高品質で美味しいだけでなく、安心、安全なもち米となっているとのことでした。

北限地帯での稲作という地理的な宿命の逆境から生まれたもち米は、長年の品種改良研究や、冬季の雪を活用した低温貯蔵施設などの栽培・管理技術、さらには、日本有数の各種銘柄からの産地指定を受けるまでの流通・販売営業などの努力の結晶と思われる。

●下水道事業について

視察先…北海道 長沼町  
長沼町の下水道事業（汚水処理）は、公共下水道（単独）・特定環境保全公共下水道及び農業集落排水（2地区）、そして合併処理浄化槽設置補助事業を実施しています。

その水洗化率は公共下水道及び特定環境保全公共下水道で97・6%、農業集落排水で78・7%と高い投資効果となっています。

また、その処理区域も北海道特有の区画整理された市街地で整備効果の良い、立地条件となっていました。

合併処理浄化槽設置補助事業は、設置補助制度で行っており、管理は設置者に委ねられているとの事でした。

今後の課題は、全国的な問題でもある処理区域内の人口の減少や施設の老朽化が問題とのことでした。

これらの問題については、処理区域の見直し、ストックマネジメントや最適化構想の策定を重視しているとのことでした。

